

民報あばしり

NO.845

2011.12.4

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八四三
四三・四四五八
F 四三・四四五七

「危険な原発は廃止へ！」

日本共産党南支部は、潮見地区の後援会員宅で「つどい」を行いました。最初に、日本共産党89周年記念講演のDVDを視聴して感想を出し合いました。その中で「原発事故の問題で放射能被害が山頂まで広がっていて、来年の雪解け水とともに放射能も流れて川に注がれ汚染が広がってしまうのではないかと、海の汚染も心配だ」などたくさん意見が出されました。

続いて、松浦市議から野田内閣が進める消費税増税の問題の話があり、野田首相は今年度中に法案を通して、その後、解散総選挙を行うと言っているが、



いよいよ東奔西走

今回、大阪市長選挙で当選した橋下徹氏の府知事時代の政治手法を「プレビシット型首長」といい、かなり前からその危険性が指摘されてきた。彼はプレビシットの手法を駆使して、自己の政治的地位の強化と政策の正当化を試みるタイプという。

それではプレビシットとはなにか？ 行政の長が、選挙や住民投票などの有権者の意思表明の機会を自分への信任投票と位置づけ、その結果を自身への「民意」の支持とみなそうとする政治手法と言われる。名古屋市の河村市長も同様である。

これら首長の政治手法の共通項は、新自由主義路線の行政（行政の民営化と規制緩和は市場原理になり格差拡大）・選挙の戦術的利用による「民意」の調達（無用な辞職で行政を停滞させ、有権者を道具としてあおる）・議会の軽視無視（議会を抵抗勢力とし対立構造をつくる）・ワンフレーズの政治的スローガンと敵との対決構造の演出等々あげればきりがなく、いつかこのような道を通りませんでしたか。そうです、小泉構造改革通りです。装いも新たな構造改革勢力のカンバックは御免です！

親子給食方式は市民の合意が必要だ！

議会報告では、9月の一般質問の概要と、12月議会の大きな問題として、学校給食の親子方式について市の教育委員会の方針とこれまでの経緯、問題点について報告がありました。その中で、こんな大事な問題なのに労働組合だけと話し合い、市民には十分知らせないで議会に提案するのはおかしいとの声が大勢を占めました。

松浦議員は、12月議会で問題を明らかにして市民の声を十分に聞くよう求め拙速な判断をしないように頑張ると述べて懇談を終りました。

松浦奮戦メモ

今TPPの焦点の一つに「ICSD条項」があります。これは多国籍企業がTPPに参加する各国政府を自由に訴えることができるというもので、すでにFTA（自由貿易協定）に盛り込まれ世界中で問題になっています。

実際に訴訟になれば、多くの協定で仲裁期間に指定されているのが、世界銀行傘下の国際投資紛争解決センター（ICSID）です。ここでは、これまで提起された390件の内245件が、ICSIDで審理されたそうです。この審理は非公開で、不服があっても上訴することができません。しかも地方自治体の規則も訴訟の対象になるのです。

メキシコでの廃棄物処理場の建設をめぐる、米企業がメキシコ政府を提訴して、地元自治体の建設不許可が北米自由協定違反に問われ、ICSIDは2000年、環境保護のためという自治体側の主張を退け、メキシコ政府に1600万ドル（12億円）の賠償を命じました。こういう「主権を侵害」する内容を持つ協定は許してはなりません。

流水

今年のノーベル平和賞は、アフリカと中東の3人の女性におくられた。3人は、リベリアのエレン・サーリーフ大統領と平和活動家リーマ・ボウ・ウイーさん、イエメンの人権活動家タワツクル・カルマンさんだ。軍事独裁政権、政治腐敗汚職、貧困、難民、女性虐待など、想像を絶する困難に立ち向かい、経済・社会の再建、女性の地位向上、平和の構築に大きく貢献したというのが受賞の理由だ。▼

アフリカ、中東地域の女性たちが参政権を獲得していくのは20世紀後半、多くは21世紀になってからで、レバノン、サウジアラビア（地方議会には有）、アラブ首長国連邦はまだ参政権がない。イスラム圏の中でも特に保守的なサウジアラビアの女性に「車の運転さえ認められていないのに、参政権など無理ではないか」と尋ねると「英国でもシェイクスピアの時代には、女性は舞台に立てなかった。時代は変わるわ」と▼

平和賞を受賞した3人の女性たちと、今年亡くなったケニアのワンガリ・マータイさんも同様、いごんだ仕事は命さえ危ぶまれるような限りない困難をとまなうものであったし、現在も解決の途上にある。しかし、あきらめない心と小さな一歩の積み重ねが「必ず時代を変える」と彼女たちが教えてくれる。日本の再生を願う私たちにとって彼女たちから学ぶものは多い。(C)